

最終章・ゆとり教育世代の地域教育

# 親のやる気

〇〇77



この連載もいよいよ最終章。ここから7回は、学校・家庭・社会を包含する「地域教育のあり方」のヒントを述べさせていただきます。と思います。

3月5日、青森県立高校前期入試の翌日。地元ラジオ局で担当している「教育相談コーナー」

## 人生の予習

ナー」に中一女子から質問が寄せられました。「受験は前期と後期、どちらの方が『行きたい高校』に入れますか」という内容。前期入試制度について子どもたちは学校で、『行ける高校』から『行きたい高校』へと説明を受けています。しかし、この『行きたい高校』の捉え方は、親の世代とは異なっています。ゆとり教育世代の子どもたちは学年

# 教えるべき備えは経験

## 豊かな想像力身に付けて



by yoriko

「備えあれば憂いなし」となるように、塾では「入試は選抜だ。自分なり」の頑張りではなく、「他人なり」の頑張りをして」と前日まで何度も言い聞かせ、取り組ませてきました。私は「行きたい高校は？」と尋ねました。本人は「受かるところに…」とだけ言っていました。青森県では、後期は前期と異なる高校に出席可能です。ランクを下げる「行ける高校」にするか、前期で落ちた本来の「行きたい高校」に再挑戦するか…。面談の席、本人が「どうすればいいか…」とボンボンと話し始めました。高校入試で不合格。確かに本人にとっでは人生初の大ショックでしょう。しかし、

な経験から、豊かな想像力は望めません。現実を目の当たりにして思考が停止し、一歩前に出るのが大変難しいようです。(畑山篤志学塾塾長)

特別支援学千差万別。視でなく、知的障害人付き合いが自分でコントロールしてやるべき指導



「執筆は4人、たたくさんあた」と話す伊

## 教育

# 集団でゆっくり走ろう

運動の根幹となる「走る」。それは体力面ばかりでなく、精神面からも

ば遅い日も。そこに意識しなければならず、子どもたちは自分だけの意思で動作を決め

られない現実に直面す。それは他のスポーツにも生きてきます。サッカーをしてい

る

る

マラソンで先頭集団